

(抗議声明)

2012年7月18日

アメリカ大統領 バラク・オバマ 殿
内閣総理大臣 野田佳彦 殿
外務大臣 玄葉光一郎 殿
防衛大臣 森本 敏 殿
沖縄及び北方対策担当大臣 川端達夫 殿

危険な米軍輸送機オスプレイの配備を撤回せよ

日米両政府は、沖縄県民・国民の強い反対を無視して、米海兵隊の垂直離着陸機MV22 オスプレイの普天間基地への配備を強行しようとしている。

オスプレイは、開発段階から何度も墜落事故を引き起こし、今年4月にモロッコでの墜落事故で2名が死亡したのに続き、6月にはアメリカのフロリダ州で墜落するなど、これまでに少なくとも36名が死亡しており、欠陥機であることが明らかとなっている。

事故の原因が十分解明されていないにも関わらず、周囲に民家や学校、保育園、病院などが密集している、「世界一危険」な普天間基地にオスプレイを配備することは言語道断である。

オスプレイ配備が強行されれば、沖縄本島だけでなく周辺離島の住民も危険にさらされることになる。

沖縄では県議会が二度の配備反対の決議をあげ、県知事をはじめ41全市町村長、全市町村議会がオスプレイ配備に反対し、「オール沖縄」の声となっている。

6月17日には5200人の参加で宜野湾市民大会が開かれ、8月5日には県民大会も予定されている。

私たちは国民の命と健康を守ることを使命とする医師の団体として、県民の声を無視し、県民の命を危険にさらすオスプレイの配備に強く抗議し、撤回を求めるものである。

沖縄県保険医協会 第1回理事会